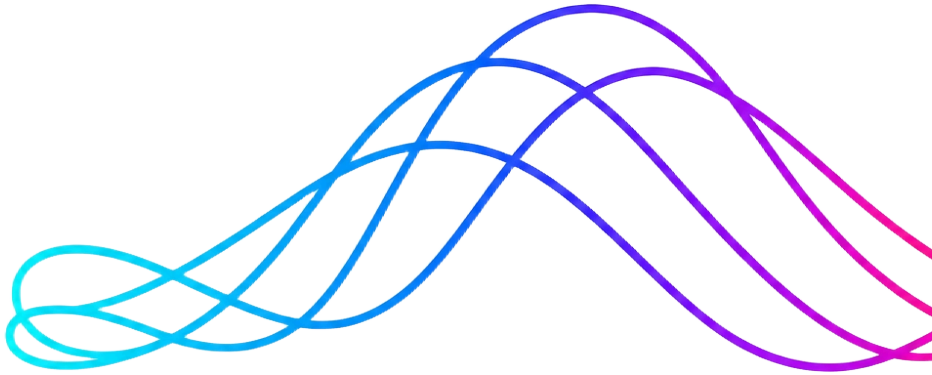
SHANNON LLC ｜ ERROR & LOG MONITORING

エラー監視・ログ監視

サービス資料

本番のエラーとログを、埋もれさせない。どこで・誰に・どれくらい影響が出ているかを可視化し、埋もれたエラーに最短でたどり着ける状態にします。



エラーもログも出ているのに使えないのは、整理と通知設計が原因です

こんなお悩み、ありませんか？　多くは「出力」ではなく「整理と通知設計」が追いついていないことが原因です。

問い合わせで初めて気づく

本番でエラーが出ても、ユーザーからの問い合わせで初めて気づく。発覚が遅れるほど影響ユーザーは増え、運用の信頼にも関わる。

重要なエラーが分からない

エラーは大量に出ているが、どれが重要なのか分からない。通知が多すぎて、いつの間にか誰も見なくなっている。

SSH + grep で調査

障害のたびに複数サーバーへ SSH して、grep して回っている。調査に時間がかかり、復旧も報告も遅れがちになる。

リリースの影響を追えない

どのリリースで問題が増えたのか、後から追えない。デプロイとエラー増加を突き合わせる手段がなく、切り分けが難航する。

保存期間・コストが未定

ログの保存期間・取り込みコストの方針が決まっていない。方針がないまま、取り込み・保管の費用だけが膨らんでいく。

入れただけの監視ツール

エラー監視ツールは導入済みだが、活かしきれていない。通知は来るが整理されておらず、「入れただけ」になっている。

「ツールを入れる」だけでは解決しません。捕捉 → 絞り込み → 通知設計までつなげて、はじめて運用に乗ります。次ページでシャノンのアプローチをご説明します。

「捕捉して、絞り込む」

整理と通知設計までつなげて運用に乗せます

エラー監視は「ツールを入れた」では完結しません。3ステップで「見て対応できる」状態まで引き上げます。

1. 捕捉する

エラー監視ツール＋CloudWatch Logs

- エラー監視ツールを中心に、本番のエラー・例外を捕捉
- CloudWatch Logs と組み合わせ、関連するログまで**ひとつながりで追える**状態に
- SDK 組み込み・初期設定
- 環境・リリースの分離
- ソースマップ登録

2. 絞り込む

対応すべきエラーだけに

- 対応すべきエラーだけを浮かび上がらせ、不要エラー・過剰通知は抑制
- エラーの分類・グルーピング
- 影響ユーザー数の可視化
- リリース別の比較

3. 「見て対応できる」状態へ

通知の見過ごしを防ぐ

- 重要なものだけが適切な相手に届く通知ルートで、通知が見過ごされる状態を防ぐ
- **重要度別の通知ルート**
- Slack / Google Chat / Chatwork 通知
- 複合条件アラート

「出ているだけ」のエラー・ログ → 「見て対応できる」運用へ

※ グルーピング＝同種のエラーを1つにまとめて件数・影響範囲で把握する機能。1件ずつ通知が届く「通知の洪水」を防ぎます。

ツールは案件特性とコストに応じて選定します。既存サービス・既存ツールを尊重しつつ、必要な範囲だけ整備します。

対応範囲①

導入・整備から、エラーとログをひとつながりで追える状態まで

既存サービス・既存ツールを尊重しつつ、必要な範囲だけ整備します。

エラー監視の導入・整備

アプリケーションへの組み込みから、運用に耐える設定まで。環境・リリースを分け、どこで起きたかを正確に追える状態にします。

- SDK 組み込み・初期設定
- 環境・リリースの分離
- ソースマップ登録
- パフォーマンス・トレース

向いているケース：本番のエラーに、ユーザーからの問い合わせで初めて気づく。

エラーの整理・通知

大量のエラーを分類・グルーピングし、件数と影響範囲を可視化。重要なものだけが、適切な相手に適切な経路で届く通知ルートを設計します。

- エラーの分類・グルーピング
- 影響ユーザー数の可視化
- リリース別の比較
- Slack / Google Chat / Chatwork 通知

向いているケース：通知が多すぎて、いつの間にか誰も見なくなっている。

ログの集約・可視化

分散したログを CloudWatch Logs に集約し、構造化して検索できる状態にします。エラーと関連ログをひとつながりで追えるようにします。

- CloudWatch Logs での集約
- 構造化ログ（JSON）標準化
- 検索・ダッシュボード設計
- リクエスト ID による追跡

向いているケース：障害のたびに複数サーバーへ SSH して、grep して回っている。

※ ソースマップ登録＝圧縮・変換された本番コードのエラーを、元のソースコードの行に対応付ける設定。フロントエンドの調査時間を大きく短縮します。

対応範囲②

ノイズ抑制・コスト最適化・監査対応まで踏み込みます

「入れただけ」で終わらせず、通知の質と費用構造、監査要件まで整えます。

ノイズの抑制

無視され続けるエラー・過剰なアラートを抑制。本当に対応すべき通知だけが届く状態に整え、通知が見過ごされる状態を防ぎます。

- 不要エラーの抑制
- 過剰アラートの抑制
- 重要度別の通知ルート
- 複合条件アラート

向いているケース：エラーは大量に出ているが、どれが重要なのか分からない。

保存・コスト最適化

エラーイベント量・CloudWatch ログの取り込み量・保存期間を見直し、必要な可視性を保ちながら、月々のコストを継続的に抑えます。

- エラーイベント量の最適化
- CloudWatch 取り込み量の見直し
- 保存期間・ライフサイクル設計
- 長期アーカイブ（S3 + Glacier）

向いているケース：ログの保存期間・取り込みコストの方針が決まっていない。

監査向けの保全

監査や規制対応で求められる保存年数・ログ要件に対応。アクセス権限・閲覧記録から長期保管まで、監査証跡として提示できる形で残します。

- 監査ログの収集・保全
- アクセス権限・閲覧記録
- 監査向けの長期保管
- ISMS 監査での提示

向いているケース：監査・ISMS で求められるログ要件（保存年数・アクセス記録）への対応が必要。

※ ISMS＝情報セキュリティマネジメントシステム（ISO/IEC 27001）。求められる保存年数・要件に合わせてログの収集・保管を設計します。

「ログに出すだけ」「クラウド標準ログのみ」との違いは、整理と通知の設計です

よくある2つの状態と、シャノンが整備した後の違いを、3つの流れで整理しました。

エラーはログに出すだけ

✕エラーはログに出力して終わり。重要度や影響範囲の判断ができない

✕障害は問い合わせで発覚し、調査のたびにサーバーへ SSH + grep

✕どのリリースでエラーが増えたか後から追えない

✕対応の優先順位を決める材料がそろわない

※ 埋もれたエラーに最短でたどり着けない状態が続きます。

クラウド標準ログのみ

✕CloudWatch Logs 素のままで、検索しづらい

✕集約・通知は別途構築。エラー単位で把握できない

✕取り込み・保管費用が膨らみ、コストが読めない

✕保存期間の方針が決まらないまま費用が増える

※ 保存期間の方針が決まらないまま費用が増えていきます。

SHANNON ｜ 捕捉して、整理するまで

✓エラーを捕捉・グルーピングし、影響範囲とリリース比較を可視化

✓CloudWatch Logs と連携し、関連ログをひとつながりで追跡

✓通知設計・ノイズ抑制で、重要な通知だけが届く

✓保存期間の方針もコストと合わせて設計

※ 既存サービス・既存ツールを尊重しつつ、必要な範囲だけ整備します。

出典： 当社サービスページ「エラー監視・ログ監視」（https://shannon.co.jp）の比較整理より

差がつくのはツールではなく設計です。次ページで、既存サービスを止めずに整備する進め方をご説明します。

既存サービスを止めずに、診断から段階的に構築します

エラー監視の組み込みから着手し、数週間〜数ヶ月の伴走で通知品質を実戦で磨きます。

無料相談 30〜60分	現状診断	設計・提案 書面で提示	段階的構築	運用支援
・エラー・ログの出力状況を伺う ・現場の困りごとを整理	・エラーの発生状況・ログの発生元・量・コストを棚卸し ・重要エラーの抽出 ・改善優先度を整理	・ツール選定・構成 ・通知ルートの設計 ・ログ集約・保存方針 ・保存期間・ライフサイクル設計	**★ 本番反映** ・エラー監視の組み込みから着手 ・構造化ログ・ダッシュボード整備 ・**既存サービスを止めずに整備**	・数週間〜数ヶ月の伴走で、グルーピングと通知品質を実戦で磨く ・不要エラー・過剰アラートの抑制

診断 → 設計 → 構築 → 運用（既存サービスへの影響を最小化）

お約束：ツールは案件特性とコストに応じて選定 ／ 不要エラー・過剰アラートは絞り込む ／ 組み込み・ログ整備は段階的に実施し、既存サービスへの影響を最小化します。

現状診断だけでも、構築までででも

2つの対応形態から選べます

まず費用構造と重要エラーを可視化してから、構築に進むかを判断いただけます。

現状診断

- エラー・ログの現状棚卸し
- 重要エラーの抽出
- イベント量・ログ費用の試算
- 費用構造の可視化・ご提案
- レポート PDF 納品

エラーの発生状況・ログの発生元・量・コストを棚卸しし、改善優先度を整理します。診断だけのご依頼も可能です。

BUILD

構築

- エラー監視の導入・整備
- 通知設計・ノイズ抑制
- ログ集約・ダッシュボード
- 重要度別の通知ルート設計
- 運用引き継ぎ

エラー監視の組み込みから着手し、既存サービスを止めずに整備。数週間〜数ヶ月の伴走で通知品質を実戦で磨きます。

※ 料金は要件確定後に書面でご提示します。案件規模に応じてお見積りします。

「サイトが止まったこと」に気づく仕組みは、サイト単位の月額制の死活監視サービスで別途ご用意しています。エラー・ログ監視とあわせてのご相談も承ります。

導入済みツールの立て直しも、コスト削減も、監査対応もご相談ください

ご相談の多い質問と、シャノンの回答をまとめました。導入前の疑問解消にお使いください。

	よくあるご質問	シャノンの回答
活用	エラー監視ツールは導入済みですが、活かしきれていません。	よくあるご相談です。分類・グルーピング、影響ユーザー数の可視化、不要エラーの抑制、通知ルートの整備で、「入れただけ」から「見て対応できる」状態に引き上げます。
費用	ログ・エラー監視のコストが膨らんでいます。削減もできますか？	対応します。エラーイベントの量、CloudWatch Logs の取り込み量、保存期間を見直し、必要な可視性を保ちながらコストを下げます。診断時に費用構造を可視化してご提案します。
監査	監査・ISMS で求められるログ要件に対応できますか？	対応します。監査ログの収集、アクセス権限・閲覧記録、長期保管まで、求められる保存年数・要件に合わせて設計し、監査証跡として提示できる形で残します。
関連	サイトの死活監視もまとめてお願いできますか？	サイト単位の月額制の死活監視サービスを別途ご用意しています。複数拠点からの 24 時間監視・SSL 期限監視・専用ステータスページ・月次稼働率レポートまで含みます。

出典： 当社サービスページ「エラー監視・ログ監視」（https://shannon.co.jp）よくあるご質問より

ここに無いご質問も、無料相談でお答えします。現在のエラー・ログの出力状況をお聞かせいただければ、机上の一般論ではなく、実際の出力状況にもとづいて診断の観点を具体的にご案内します。

会社概要

社名	シャノン合同会社（SHANNON LIMITED LIABILITY COMPANY）
代表者	三浦 昌大（Masahiro Miura）
設立	2026年4月 （決算月：3月）
拠点	東京都豊島区池袋2丁目17-8 ／ 千葉県柏市若柴178-4 ／ 北海道札幌市中央区北二条東3丁目2番2号マルタビル8階
資本金	9,900,000円
事業内容	プロダクト開発・運営 ／ インフラ構築・運用 ／ エンジニアリングエージェンシー
パートナー	Xserverビジネスパートナー ／ Microsoft Cloud Partner Program
取引銀行	三菱UFJ銀行 柏支店
電話	050-1794-9651 （自動音声でお受けし、営業日に折り返しご連絡します）
連絡先	contact@shannon.co.jp ／ https://shannon.co.jp

E.O.F

SHANNON